

# 2017年度 水際対策2（国境）委員会 成果報告

## 『国境税関の実態把握と 当地税関との交流を通じた対策強化』



2018年3月13日

中国IPG 水際対策2（国境）委員会  
土田 貴志（マツダ中国）

# 0. 委員会メンバー

エプソン（中国）

オリンパス（中国）

カシオ（中国）

KYB（株）

キヤノン（中国）

ソニー（中国）

トヨタ（中国）

ニコン（中国）

日産（中国）

ブラザー（中国）

本田（中国）

松下電器研究開発（中国）

マツダ（中国）

三菱重工（中国）

三菱電機（中国）

15社42名

# 1. 現状認識と課題

## 現状認識

2015年～2016年の活動によって、ベトナム国境税関（南寧、凭祥）、ミャンマーとの国境税関（昆明、瑞麗）、カザフスタンとの国境税関（烏魯木齊）、ロシアとの国境税関（満州里）、税関総署への訪問と意見交換の実施によって現状把握を行ってきた。その結果、

- 1) 国境税関では、トラック輸送や人のハンドキャリーによる**貿易量も権利侵害品の差止め実績もそれほど多くはない**ことが分かった。
- 2) しかし、真贋セミナー等の交流実施後は、税関からの権利侵害品の通知が増える傾向があり、**必ずしも模倣品等の流通が少ないとは断言できない状況**であることも分かった。
- 3) **国際鉄道貨物の税関検査は貨物積込地の税関で行っており、国境税関では情報を十分に収集できない**ことも分かった。

## 課題

国際鉄道貨物による流通や税関検査の実態把握が不十分。

## 2. 調査研究目的

### 目的

一帯一路政策で強化されつつある内陸国境経由で欧州へと通じる国際鉄道貨物ルートに関し、沿線の貨物積込地税関の実態把握を行い、2015～16年にかけて把握した内陸税関の現状、流通の特徴も加味し、『**内陸輸送ルートに対する水際対策のあり方**』を提言する。

# 3. 調査研究方法

## 計画

### 意見交換

1. 重慶～阿拉山口～欧州ルート  
重慶税関及び物流会社との意見交換
2. 蘇州～満州里～ロシア、欧州ルート  
蘇州税関及び物流会社との意見交換

### 外部委託調査

調査会社への委託調査

### 真贋セミナー

以下の候補地から一カ所  
昆明、烏魯木齊、重慶、蘇州



# 4. 研究に基づく成果

## 活動実績

### 1) 定期会合の実施

- 第1回4/12 活動テーマ・目的の確認、活動計画検討、訪問希望税関  
検討
- 第2回5/10 調査委託内容及び委託先検討、活動推進の具体化検討
- 第3回6/7 税関及び物流会社への確認事項検討
- 第4回7/19 海外差止データのトレンド分析検討、真贋セミナー実施  
方針検討
- 第5回8/21 外部委託調査中間報告、真贋セミナー実施方針検討
- 第6回9/13 外部委託調査中間報告
- 第7回10/11 重慶税関・物流会社との意見交換結果報告
- 第8回12/13 上海鉄路局上海貨運中心との意見交換結果報告
- 第9回1/10 外部委託調査最終報告、来年度活動の検討
- 第10回2/8 義烏税関・南京税関との意見交換結果報告、活動成果確認

# 4. 研究に基づく成果

## 活動実績

### 2) 税関・物流会社訪問、意見交換

- ① 9/18 (月) 渝新欧 (重慶) 物流有限公司意見交換  
(4社4名、事務局、調査会社)
- ② 9/19 (火) 重慶税関意見交換 (4社4名、事務局、調査会社)
- ③ 12/8 (金) 上海鉄路局上海貨運中心意見交換  
(3社4名、事務局、調査会社)
- ④ 1/18 (木) 南京税関意見交換  
(蘇州税関を管理監督する上位税関)  
直前の日程変更に対応できず、調査会社のみ訪問
- ⑤ 1/24 (水) 義烏税関意見交換 (11社11名、事務局、通訳)

後半集中型となったが、予定していた活動は概ね実施できた

# 4. 研究に基づく成果

## 税関及び物流会社との意見交換、外部委託調査により確認できたこと

### 1. 主要路線

- 重慶－阿拉山口／二連浩特／満州里－ドイツ（渝新欧）
- 蘇州－阿拉山口／満州里－ポーランド（蘇満欧）
- 義烏－阿拉山口－スペイン（義新欧）

その他にも、各都市から中央アジアや欧州、ロシア向けの国際鉄道貨物路線が多数有り、発展途上。東南アジア方面へのルートはまだ未発達。

### 2. 主要商品

- 渝新欧ルート： ノートPC、自動車部品、衣類、靴
- 蘇満欧ルート： 電子製品、自動車部品
- 義新欧ルート： 雑貨

### 3. 国際鉄道貨物における税関検査方法

- トラックや船便等の他の貨物に対する検査と同じ

### 4. 通関手続き/検査の簡素化/迅速化

- 通関一体化が進められている（転関に比べて簡便）
- 将来的には通関一体化に集約されていく予定



## 4. 研究に基づく成果

### 税関及び物流会社との意見交換、外部委託調査により確認できたこと

#### 5. 通関手続き及び検査

途中の経由都市の駅での貨物の積込は無く、経由駅での通関手続きや検査は無い

- 転関：始発駅の税関で通関手続き及び貨物検査を実施
- 通関一体化：通関手続きは始発駅または国境駅の何れかで実施  
検査は国境税関で実施
- 殆どが職権による検査で、権利者の申請による検査は少ない

#### 6. 税関知財担当官の配置

- 全ての始発駅に税関知財担当官が配置されている訳ではない（上海鐵路局上海貨運中心（貨物ターミナル）には知財担当官を含む税関職員10名配置）

#### 7. 国際鉄道貨物での小口郵便貨物の取り扱い

- 小口郵便貨物の取扱いは、無い／あるいは非常に少ない

#### 8. 国際鉄道貨物における知財権侵害品差止め実績

- 海運に比べれば、差止め実績は非常に少ない

## 内陸輸送ルートに対する水際対策のあり方

- 1) 国際鉄道貨物やトラックによる内陸輸送ルートの貨物量は、海運に比べればまだまだ少ないが、一帯一路政策の後押しを受けて発展途上の段階。中国内外での模倣品発見時に、輸送手段や発送人所在地、発送先等の情報収集に努めるなど、**模倣品輸出経路の変化動向を注視**し、今後の水際対策へと反映すること。
- 2) 通関手続きが通関一体化へと集約されていく中で、今後、内陸輸送ルートに対しては、貨物検査の場所が内陸国境税関等、貨物が実際に国外へと出ていく場所の税関へと移っていく傾向にある。従って、**上記1) の変化動向を見ながら、必要に応じて、従来の沿岸部の税関に加えて内陸国境税関との連携・協力（情報提供、意見交換、真贋判定セミナー等）も深め、コミュニケーション環境を構築すること。**

今年度、国際鉄道貨物による流通や税関検査の実態を把握することができ、2015年～16年の活動成果も加味して実務への提言をまとめることができた。従って、本テーマでの委員会活動は今年度で終了とする。

ご清聴ありがとうございました。